

## 令和 6 年度 第 3 回史跡カリンバ遺跡整備検討委員会 議事録

場 所： 恵庭市役所 301・302 会議室

日 時： 令和 7 年 1 月 20 日（月）15:15～17:00

出席者：

（委 員）愛甲哲也、臼杵勲、高瀬克範、西村聰、吉岡亜希子、吉田惠介  
脇谷草一郎

（オブザーバー）文化庁 調査官 中井將胤、北海道教育庁 専門主任 内田和典

（関係機関）（株）環境緑地研究所 環境計画部長 太田幸司、技師 多田麻抄美  
恵庭市建設部土木課 課長 田中徹、主査 野呂潤一、  
主任技師 吉田健人

（事務局）教育長 岩渕隆、教育部長 狩野洋一、教育部次長 山口晃弘、  
郷土資料館長 高野隆司、主査・学芸員 長町章弘、  
主事・学芸員 杉浦正和

### 議事録

#### 1. 開会

#### 2. 挨拶

#### 3. 議題

##### 議題「3. (1) 史跡カリンバ遺跡の水文環境について」

<事務局> 資料 1 の 1～5 頁について説明。

<A 委員> 過去 7、8 年のデータを見ると、わずかに水位が下がっているよう  
に思われる。大きな変化はないように見えるが、B 委員から見てどのような判断  
ができるかをお送りください。

##### 議題「3. (2) 史跡カリンバ遺跡整備基本設計について」

<事務局> 資料 1 の 6～21 頁について説明。

<C 委員> 6 頁について、サイロの取り扱いについてはこれでよい。ただし、  
安全性の確認をしたい。市民に対して説明を求めされることもあるので確認と、  
工法によっては解体費用が 1,000 万円以上と書いているが、安価な場合もある  
ようだ。100 万、200 万でサイロの解体が行われている例があるので、その辺の

質問もあるかもしれない。今回基本設計委託ということで、発注の直前までは進むと思う。そういう意味で、今回の資料に看板の基礎について書かれていない。表土が20~25cm程しかなく、遺跡の保存上考慮すべきと本文にも記載されている。様々な種類の基礎がある中でどれにするのか、設計に近づく様なコメントなり図面なりを出していただきたい。

＜事務局＞ 旧サイロの安全性について、D委員にサイロの記録を取ってもらうために事前確認に行ったところ、サイロ内に大量のゴミがあった。ゴミを処分するためにサイロ内に入り確認したが、本体は比較的頑丈な状態と思われた。サイロに来場者が近づかないように、景観に配慮した木杭やロープで立ち入り禁止にし、安全性を確保したい。サイロの解体に関して、当初島松軟石を再利用するということで、環境緑地に概算費用を出してもらったところ、1,000万円以上かかると判明した。前回の委員会では再利用しなければ安価で済むと話している。環境緑地の方、サイロをただ解体する費用はどの程度か。

＜関係機関A＞ 島松軟石を活かさないのであれば重機を使うため、300~400万円くらいで解体可能と考えられる。今回は軟石を保護、再利用ということであった。サイロの軟石が厚く、表面と背面からコンクリートカッターでカットしないときれいに外れないという特殊な事情もあり、人工が倍かかり、この価格になった。

＜C委員＞ そういう内容も書いておいた方がよい。

＜事務局＞ 看板等構造物の基礎について記載した資料は、今後環境緑地から提出していただく。

＜関係機関A＞ 盤面の形状と考え方、施設の配置等について合意形成等いただき、基礎については並行して構造計算等しているため、概略的な寸法を成果として提出する。皆様にはメール又は郵送で確認していただく。基本設計図では概略の割り付け、造成、排水、植栽、施設、作工関係のすべての概略の図面を成果として納めることになっているため、後日皆様にも確認していただく。

＜A委員＞ 前回よりかなり手直しされているように思う。サイロ解体費用が1,000万円以上というのも島松軟石の再利用を前提としていた。もし費用が安価で済むのであれば、中期計画に入れる等の考慮できる余地はあるかと思う。あらゆる可能性を視野に入れて計画を立てていただきたい。

看板について、私とD委員と事務局とのやり取りの中で、内容のチェックという意味でやっていたが、デザインについてはこういう方向で行くということでおろしいか。

＜事務局＞ はい。

＜A委員＞ 看板のバックが白になっているが、資料2の看板でてくるようにバックが黒とか茶で文字が白の方が、遺跡の中では調和すると思う。デザインの細

かなところまで決めるのであれば、考慮する必要がある。

＜C 委員＞ この史跡は何もない状態で、看板が最初にインパクトを与えるものになる。看板を見て、地形を見てここはどういう場所かリアリティーを持つ。史跡には具体的なものを設けないので、看板のデザインが大事になる。今の人はQRコード等を使うので、どう見せるのかデザインを考える必要がある。

＜E 委員＞ 看板について、多目的広場に身障者用のスペースを舗装するにあたって、看板の高さは車いすの方々が見やすい高さか。

＜関係機関 A＞ 資料 2 の P44 の図のとおり、バリアフリー新法にのっとり、車いすの方にも配慮したものになる。それ以外の解説板等についても基本的に踏襲している。

＜D 委員＞ 直営で実施する部分については図も説明もないが、一応どのようなものがあるのか見せた方が良いのではないか。軽微な現状変更か。

＜事務局＞ 環境緑地から提出された概算費用では、看板一枚でも数百万円かかり、概算総額では市の財政部門から示されている予算を大幅に超えるものであった。そこで、予算の範囲内で業者委託し、委託できないものは資料館職員による直営での実施を計画した。

＜C 委員＞ 基礎の深度の確認も必要で、実際に資料をつけた方が良い。

＜A 委員＞ サイロについては新しい情報はあるか。

＜事務局＞ ない。市単費での即時解体は難しい状況である。

＜D 委員＞ サイロの入り口を閉じている蓋を開けると穴が深く危ないという印象を受けた。しっかりとサイロの中に入れないようにする必要がある。入口から底まで 2m くらいあり、子供が入ると危険。

＜C 委員＞ 沼やサイロは子供の興味をひく。きちんと対処しなければならない。

＜事務局＞ 基礎や看板のデザインに関しては、環境緑地の作成したものを、皆様にメール等で確認いただき、3月末までに基本設計を完成させたいと考えている。

議題「3. (3) 史跡カリンバ遺跡整備実施設計について」：非公開

議題「3. (4) その他整備について」：非公開

4. その他

5. 閉会